

# 令和2年度全国学力・学習状況調査の 児童生徒質問紙を活用した市調査の結果の概要について

彦根市教育委員会  
令和3年2月

令和2年度の全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染拡大の為に中止となりましたが、調査問題は各校において授業で活用し、教育活動に役立てることとしました。

また、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙については各校で調査を実施し、市で集計をしました。今回の質問紙を活用した調査から見てきた、本市児童生徒の状況に関する結果についてお知らせします。

## 質問紙調査の目的・内容

### (1) 目的

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を活用し、児童生徒の生活や学習の状況を把握する。また、調査結果を分析することにより、今後の教育活動の充実に役立てる。

### (2) 調査対象

市内 17 小学校 第6 学年、7 中学校 第3 学年  
原則として全児童生徒

### (3) 質問紙調査の主な内容

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

## 「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」について

変化の予測が難しいこれからの時代を生き抜くために、子どもたちには、主体的、自律的にキャリアを切り拓いていく能力の獲得と向上が必要不可欠です。そして、学校を離れてからも自立して学び続けることが必要になります。そのため、彦根市教育委員会では、新学習指導要領で示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、取組を進めています。とりわけ、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる「非認知能力」を伸ばすことが大切であると考えております。

そこで、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」(次ページ参照)を令和2年度に作成し、学校・園等と家庭・地域が一体となった取組を推進しているところです。

今回、全国・学力状況調査の児童生徒質問紙の回答状況について、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点で分析し、彦根市の子どもたちの育ちについてまとめました。

### <非認知能力> 3つの能力とそれぞれの能力を構成する要素

#### ○目標の達成

・忍耐力 ・自己抑制力 ・目標への情熱

#### ○他者との協働

・社交性 ・敬意 ・思いやり

#### ○情動の制御

・自尊心 ・楽観性 ・自信

( 出典 「非認知能力が子どもを伸ばす」中山 芳一 著 東京書籍)

# ひこねっこ こころそだての6か条

い

## いいんだよ ありのままです！

★子どもは、大人の温かい関わりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、ありのままを認めることが大切です。

い

## いっほ 一歩ふみだし やってみよう！

★「まず、やってみよう！」「なんとかなるよ！」と応援しましょう。小さな成功体験や失敗から学ぶ経験の積み重ねが、子どもの力を伸ばします。

な

## なぜ？どうして？は <sup>まな</sup> 学びのチャンス☆

★子どもの疑問に寄り添い、「～したい！」という気持ちを大事にして、探究心をはぐくみましょう。

お

## <sup>おも</sup> <sup>こころ</sup> 思いやりの心で つながろう！

★「自分なら…」「自分がされたら…」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやる大切さを、子どもの心に届けましょう。

す

## <sup>すこ</sup> <sup>じぶん</sup> 少しのがまん 自分のために☆

★目標達成に向けて、一緒に「計画をたてる」「ルールを決める」などして、時には我慢も必要なことに気づかせながら、自分で判断し行動できる力を育てましょう。

け

## <sup>げんき</sup> <sup>ゆめ</sup> <sup>む</sup> 元気にチャレンジ 夢に向かって☆

★結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、がんばりや成長をほめて励ますことが、子どもの次のやる気につながります。

### 井伊直弼 公(いいなおすけ こう)と彦根市(ひこねし)

江戸時代末期、時代の流れを見ながら日本のかじ取りを行った彦根の殿様です。江戸幕府の大名という大切な職についた直弼公は、鎖国中の日本において、外国の優れた技術などを取り入れて国力を高めるといふ、これからの進むべき道を理解し、開国を進めるために一生懸命尽くしました。それが、今の日本の繁栄につながっていることから、直弼公は、日本の未来を切り開いた彦根の偉人と言えるでしょう。

彦根市教育委員会では、変化の激しい時代を生きるうえで必要な資質・能力を、子どもたちが身に付けるために「ひこねっこ こころそだての6か条」を提言し、皆様とともにがんばってまいります。



い

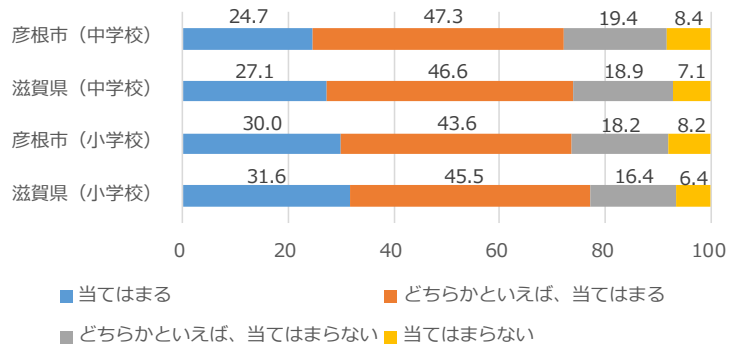
いいんだよ ありのままで！

「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに、小中学校ともに、70%以上の子どもが肯定的に回答しました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いには、小中学校ともに80%以上の子どもが肯定的に回答しました。しかし、一部に肯定的でない回答も見られました。

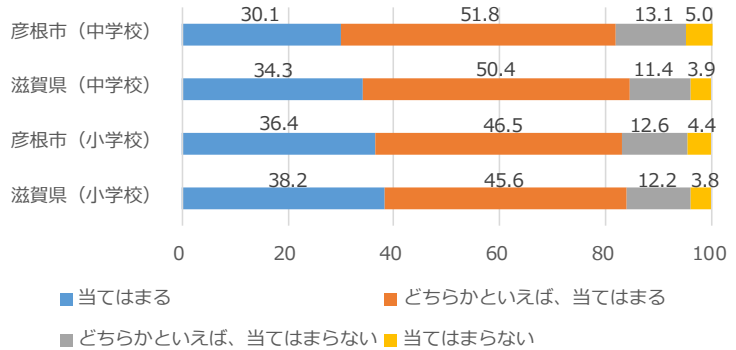
子どもは、大人の温かいかわりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、今現在のありのままを認めることを大切に、「あなたを見てるよ！認めているよ！」というメッセージを伝えていくことを心がけていきましょう。



自分には、よいところがあると思いますか



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



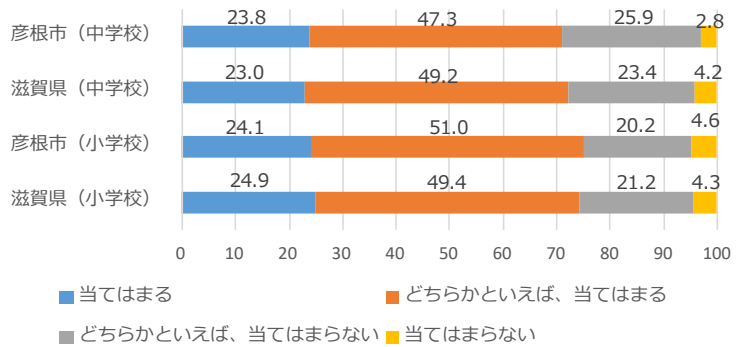
い

一歩ふみだし やってみよう！

小中学校ともに70%程度が肯定的に回答しました。そばにいる大人が子どもの気持ちに寄り添いながら、笑顔で背中を押すことにより、子どもは「やってみよう」という気持ちになります。子どもの頑張りや勇気をほめながら、小さな成功体験や失敗から学ぶ経験を積み重ねることで、子どもは自信をつけていきます。



難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



# な

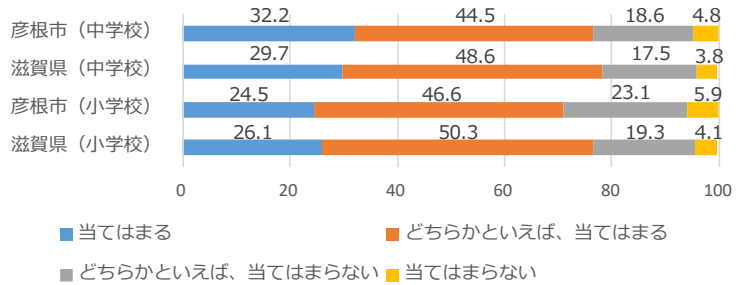
## なぜ? どうして? は 学びのチャンス☆

小中学校ともに70%以上が肯定的に回答しました。

子どもが「なぜ? どうして?」と尋ねてきたときは、一緒に考えたり、答えを見つけるプロセスを示したりすることで、好奇心・探求心が育っていきます。子どもの疑問に応える触れ合いを大事にしていきたいと思います。



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



# お

## 思いやりの心で つながろう

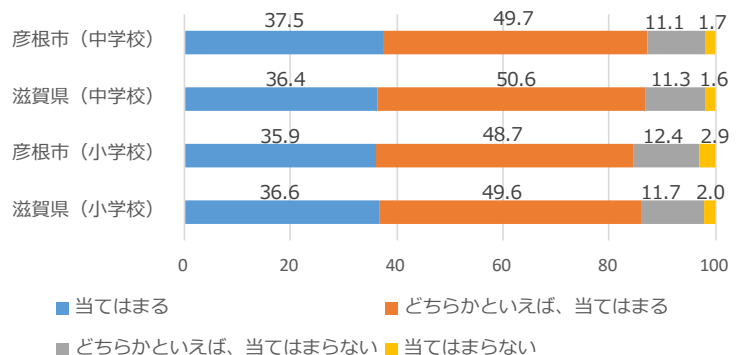
「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに、小中学校ともに80%以上の子どもが肯定的に回答しました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、小中学校ともに90%を超える子どもが肯定的に回答しました。

ともに肯定的な回答が多くみられますが、進んで行動するまでは至っていない子どもも見られました。

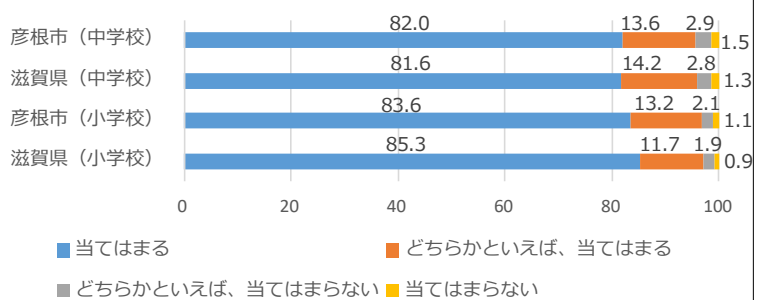
「自分なら・・・」「自分がされたら・・・」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやり、行動することの大切さを、子どもの心に届けていきたいと思います。



人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

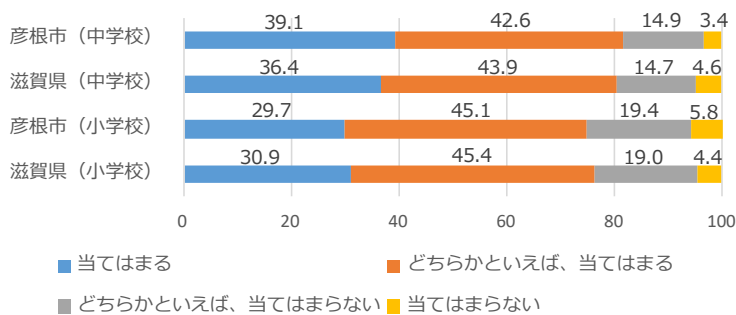


小学校で70%以上、中学校で80%以上の子どもが肯定的に回答しました。

学校では、対話を通して学びを深める活動の質の向上に向けて取り組んでいます。友達の意見に耳を傾け、自分の考えと比較し、さらによりよいものにしていこうとするなど、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の充実を図っていきたくと考えます。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



## す

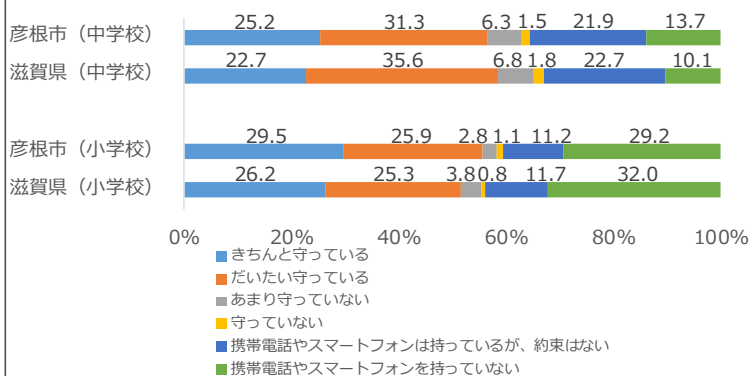
### 少しのがまん 自分のために☆

携帯電話やスマートフォンについての約束を決めている家庭の中で、約束を守っていると肯定的に答えたのは、小中学校ともに約90%でした。

目標達成のために一緒に計画を立てて先の見通しを持たせたり、一緒にルールを決めて見届けたりし、話し合う中で、時には我慢も必要なことに気づかせながら自分の気持ちをコントロールして行動できる力を育てていきましょう。



携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

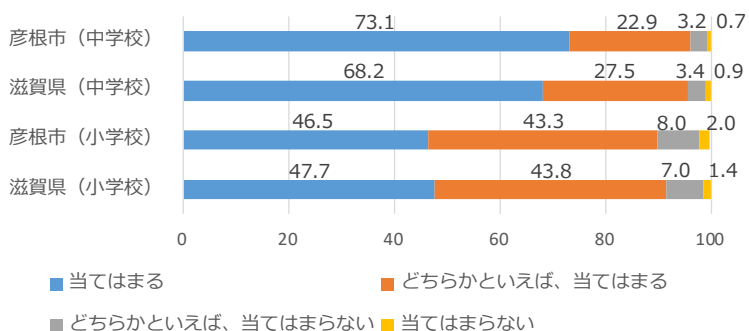


小学校で80%以上、中学校で90%以上の子どもが肯定的に回答しました。

きまりやルールを守ることができる態度は、集団や社会で生活する基礎となります。これから明けじめのある生活を大切にしていましょ



学校のきまりを守っていますか

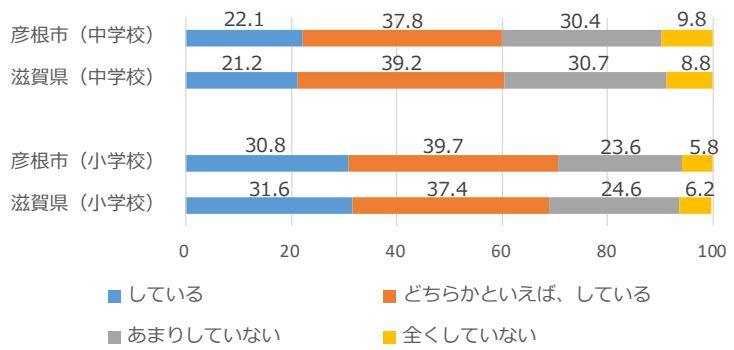


小学校で約70%、中学校で約60%の子どもが肯定的に回答しました。

興味関心を広げる学習や、学んだことをしっかりと定着させる学習について、自分で目標をたて、計画的に取り組める習慣を身に付けていくことが大切です。



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか  
(学校の授業の予習や復習を含む)



# け

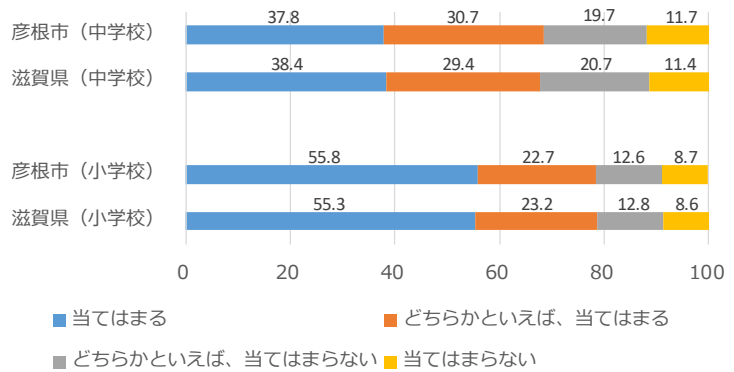
## 元気にチャレンジ 夢に向かって☆

小中学校ともに肯定的な回答が、県平均を少し上回りました。しかし、昨今の社会情勢の中で不安を感じ、将来の夢や目標をもていない子どもたちもみられます。

将来の夢や目標をもつことは、自己を振り返り、日々の生活をよりよく送ろうという態度へとつながります。様々な経験や交流をとおして、自分の将来の夢や目標について考える機会をもちたいですね。



将来の夢や目標を持っていますか

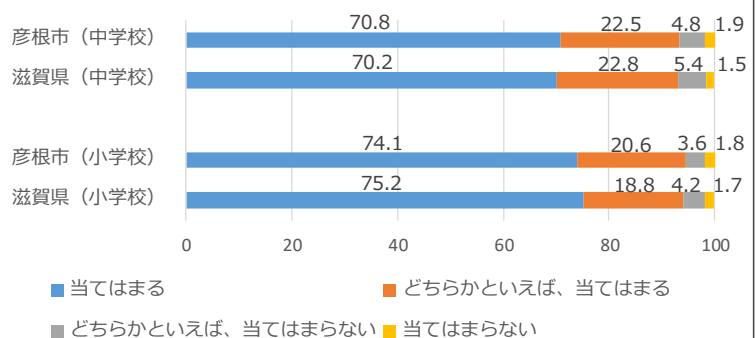


小中学校ともに、約90%の子どもが肯定的に回答しました。

チャレンジしたことを認めてほめることで、子どもはたとえ失敗しても「次は頑張ろう」と前向きにとらえられるようになります。ほめられ励まされたときに感じる「嬉しい!」という気持ちを大切に、子どもの次のやる気につなげていきましょう。



ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



## 保護者・地域のみなさまへ

これらの調査結果をもとに、今後学校と連携して課題の改善に努めてまいります。

学校では、学んだことを活用したり考えを伝え合ったりする学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、子どもの心を育む授業づくりに努めていきます。

家庭や地域では、子どもたちのがんばりを認め、温かいメッセージを伝えることで、安心してチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって、子ども達を見つめ、励まし、支えることにより、子どもたちの学びを豊かにし、これからの新しい時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を含めた「生きる力」の育成につなげていきたいと考えます。引き続き一層のご協力をよろしくお願い致します。